

Title	ECONOMIC ANALYSIS ON PRODUCTION CHANGES, MARKET INTEGRATION AND EXPORT CHALLENGES OF COFFEE SECTOR IN INDONESIA(Abstract_要旨)
Author(s)	Agus, Nugroho
Citation	Kyoto University (京都大学)
Issue Date	2016-05-23
URL	https://doi.org/10.14989/doctor.k19902
Right	許諾条件により要旨は2016-07-31に公開
Type	Thesis or Dissertation
Textversion	ETD

(続紙 1)

京都大学	博士（農学）	氏名	AGUS NUGROHO
論文題目	ECONOMIC ANALYSIS ON PRODUCTION CHANGES, MARKET INTEGRATION AND EXPORT CHALLENGES OF COFFEE SECTOR IN INDONESIA (インドネシアコーヒー産業の構造変化、市場統合と輸出競争に関する経済分析)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>インドネシアは世界第三位のコーヒー輸出国であり、コーヒー産業は国の外貨獲得や農家の所得向上と貧困削減に重要な役割を果たしている。しかし近年、内外市場での競争激化や先進国の輸入食品安全規制の強化の影響を受けて、同国のコーヒー輸出が伸び悩み、いかに輸出を振興してゆくかが政策課題の一つとなっている。</p> <p>Agus Nugroho氏の学位請求論文はこのような課題を背景に、主に統計資料と計量経済学的手法を使って、インドネシアのコーヒー生産・輸出の現状と特徴を確認するとともに、国内コーヒー市場の国際市場への統合と先進国における輸入食品安全規制の強化に着目し、これらが同国のコーヒー輸出をどの程度阻害しているのかを定量的に明らかにし、今後の振興策策定の論拠となる情報を提供しようとするものである。</p> <p>論文は全部で6章からなる。そのうち、第1章は問題の背景と研究課題を説明し、第6章は論文の要約と政策的な含意を述べている。また第2章では予備的な考察として、インドネシアコーヒー産業の現状、特に生産、消費と貿易量の変化やコーヒー生産の構造的な特徴、並びに国内外で直面する市場競争状況などを紹介している。</p> <p>3～5章が論文の中核を成す。うち、第3章では2000年から2010年までの間の、3ヶ年の産業連関表を使って、コーヒー産業と他の経済部門の関連性やそれ自身の潜在的成長可能性を定量的に計測し、コーヒー産業の国民経済における重要性を明らかにした。その結果、対象期間中にコーヒーの生産額は倍増し、コーヒー生産での他産業産品に対する中間投入需要も拡大した。またコーヒーの輸出割合は高く、輸出額も大きく拡大しているので、インドネシアにとって、農産物輸出や外貨獲得の面でのコーヒーの役割は依然大きいと言わざるをえない。よって、政府はコーヒーの生産振興と輸出拡大に関心を示し、政策的な支援策を講ずるべきと主張する。</p> <p>また第4章では、RobustaとArabicaという二大コーヒー品種に分けて、それぞれベトナム、コスタリカと比較しながら、インドネシア国内のコーヒー市場と国際市場との統合度合、および、長期均衡状態への価格調整速度を統計学的に計測・検定し、以下のことを明らかにした。①RobustaとArabicaの双方に関して、インドネシア国内の農家販売価格が国際市場価格との間に長期均衡関係が存在している。②しかし、Robustaの場合はベトナムに比べて、またArabicaの場合はコスタリカに比べて、インドネシアの国内生産者価格の長期均衡状態への調整速度が比較的遅い。特に後者②の結果は、同国のコーヒー市場が国際市場への統合が遅れていることを意味し、その問題点と改善の必要性、さらに対応策を考えるうえで、非常に有益な情報を提供している。</p>			

そして、第5章では、近年EU、日本等のコーヒー輸入国における食品安全性基準の変化を紹介したうえ、パネル・データとGravity Modelを使って、同基準の変化や、貿易双方のGDPとインドネシア産コーヒーの国際競争力等がインドネシアのコーヒー輸出に及ぼした影響を数量的に推定し、以下のことを明らかにした。①相手国のGDP増加がインドネシアのコーヒー輸出にプラスの影響を与えているが、その所得弾力性はあまり高くない。②インドネシア産コーヒーの国際競争力が同国のコーヒー輸出にプラスの影響を及ぼす一方、EUなどの先進国の輸入食品安全規制の強化がインドネシアのコーヒー輸出に負の影響を及ぼしている。以上の結果から、上記の負の影響を緩和するため、コーヒー輸出国に対する先進輸入国側からの円滑な情報提供や新しい食品安全基準をクリアするための技術協力と、輸出国側の自助努力が不可欠であることが明らかにされた。

注) 論文内容の要旨と論文審査の結果の要旨は1頁を38字×36行で作成し、合わせて、3,000字を標準とすること。

論文内容の要旨を英語で記入する場合は、400～1,100 wordsで作成し
審査結果の要旨は日本語500～2,000字程度で作成すること。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、世界第三位の輸出量を誇り、外貨獲得や地域経済発展と貧困削減に重要な役割を果たしているインドネシアのコーヒー産業を対象に、主に統計資料と計量経済学的な手法を使って、その生産・輸出の現状と特徴を確認するとともに、国内コーヒー市場の国際市場への統合の遅れと先進国における輸入食品安全規制の強化が同国のコーヒー輸出をどの程度阻害しているのかを検証し、今後の振興策策定の論拠となる情報を提供しようとするものである。評価される点は、以下の通りである。

第1に、インドネシア産コーヒーは世界的に有名であるが、それに関する研究は少なく、その生産・貿易の実態と構造的な特徴でさえあまり解明されていない。本論文の第2章では、同国のコーヒー生産の品目構成、産地分布、生産・消費と輸出量の変化だけでなく、約9割のコーヒー生産が零細農家によって担われていること、近年国内では農地利用に関してパーム油など他の農産物との競争が激しいこと、またコーヒー輸出に関して先進国の輸入食品安全規制が強化されつつある問題に直面していること、にも拘わらず、インドネシア政府がコーヒー産業をあまり重視せず、その生産・輸出振興に対策を講じていないことなど、同国のコーヒー産業の現況と問題の所在を明らかにした。これらは上記研究の空白を埋めることができたという意味で、一つの学術的な貢献といえよう。

第2に、コーヒーの市場統合問題を扱った第4章で、RobustaとArabicaという二大コーヒー品種ごとに、インドネシア国内のコーヒー生産者価格と国際市場価格との長期均衡関係の存在を統計学的に検証し、国内の生産者価格の長期均衡状態への調整速度に関し、最先端の時系列分析手法を用いて比較することによって、インドネシア国内市場の国際市場への統合の度合いが他の二つの輸出国に比べて低いことを明らかにした点は、同国のコーヒー流通システムを改善するための対策を考えるうえで非常に有益な情報を提供したという意味で、学術的にも実践的にも高く評価できる。

第3に、第5章では、パネル・データとGravityModelを用いて、インドネシア産コーヒーの国際競争力やEU等の先進国における輸入食品安全基準の変化がインドネシアのコーヒー輸出に及ぼした影響を、System GMMの手法を援用して推定した。そこで、インドネシア産コーヒーの国際競争力が同国のコーヒー輸出にプラスの影響を及ぼすこと、および、EU等先進国による輸入食品安全規制の強化が同国のコーヒー輸出に負の影響を及ぼしているという分析結果を示したことは、今後の産業発展政策立案のための科学的根拠を明らかにしたという意味において、学術的・実践的価値は大きい。

以上のように、本論文はインドネシアにとって重要な輸出農産物であるコーヒー

産業が直面する課題を適格に捉え、最新の計量経済学的手法を活用することにより、課題克服に向けた実用的な処方箋を提示することに成功している。

このように、本論文は、農業経済学、国際農業開発論、農産物貿易論の発展に寄与するところが大きいと考えられる。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成28年4月21日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。

注）論文内容の要旨、審査の結果の要旨及び学位論文は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。

ただし、特許申請、雑誌掲載等の関係により、要旨を学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日：2016年7月31日以降（学位授与日から3ヶ月以内）